

年齢調整死亡率について

1. 年齢調整死亡率とは

年齢構成の異なる地域間では一般に高齢者が多いほど死亡率は高くなり、年齢構成の違いを考慮せずに死亡率による死亡状況の比較は単純にはできないため、年齢構成を調整した死亡率いわゆる年齢調整死亡率を用います。年齢調整死亡率を用いることによって年齢構成の異なる集団について年齢構成の相違を気にすることなく正確に地域比較や年次比較をすることができます。

2. 年齢調整死亡率の基準人口への対応について

年齢調整死亡率の算定にあたっては、昭和60年モデル人口を用いていましたが、厚生労働省が公表する2020年人口動態統計から平成27年（2015年）モデル人口に変更されております。

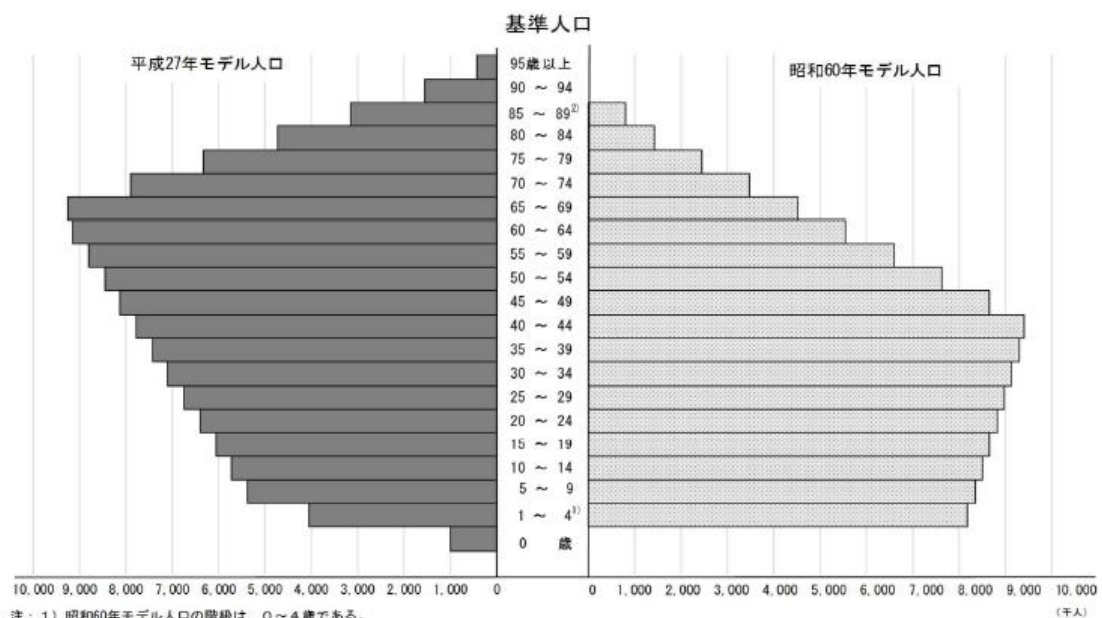
「宮崎県健康づくり推進センターホームページ」の「データブック」では、平成27年モデル人口を用いた年齢調整死亡率の算出について最新の公表統計をもとに更新を予定しています。当面の間、従来の昭和60年モデル人口を用いた年齢調整死亡率も更新を続ける予定です。

また、平成27年モデル人口を用いた年齢調整死亡率の遡及は順次対応を予定しております。

基準人口（平成27年モデル人口）		（単位：人）	
年齢階級	基準人口	年齢階級	基準人口
0歳	978 000	50～54歳	8 451 000
1～4	4 048 000	55～59	8 793 000
5～9	5 369 000	60～64	9 135 000
10～14	5 711 000	65～69	9 246 000
15～19	6 053 000	70～74	7 892 000
20～24	6 396 000	75～79	6 306 000
25～29	6 738 000	80～84	4 720 000
30～34	7 081 000	85～89	3 134 000
35～39	7 423 000	90～94	1 548 000
40～44	7 766 000	95歳以上	423 000
45～49	8 108 000	総数	125 319 000

注：年齢調整死亡率の算出では、基準人口（平成27年モデル人口）の「0歳」、「1～4歳」を分離せずに「0～4歳」として使用している。

基準人口（昭和60年モデル人口）		（単位：人）	
年齢階級	基準人口	年齢階級	基準人口
0～4歳	8 180 000	50～54歳	7 616 000
5～9	8 338 000	55～59	6 581 000
10～14	8 497 000	60～64	5 546 000
15～19	8 655 000	65～69	4 511 000
20～24	8 814 000	70～74	3 476 000
25～29	8 972 000	75～79	2 441 000
30～34	9 130 000	80～84	1 406 000
35～39	9 289 000	85歳以上	784 000
40～44	9 400 000	総数	120 287 000
45～49	8 651 000		



3. 算出方法について

$$\text{年齢調整死亡率} = \frac{\left\{ \left[\begin{array}{l} \text{観察集団の各年齢} \\ \text{（年齢階級）の死亡} \end{array} \right] \times \left[\begin{array}{l} \text{基準人口集団のその年} \\ \text{齢（年齢階級）の人口} \end{array} \right] \right\} \text{の各年齢（年齢階級）の総和}}{\text{基準人口の総数}}$$